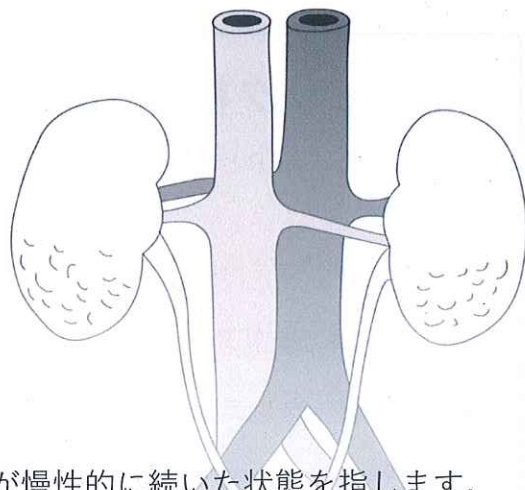


知っていますか

CKD



CKD（慢性腎臓病）とは、腎障害を示す所見や腎臓の機能低下が慢性的に続いた状態を指します。
新たな国民病とも言われている疾患で、患者は**日本人成人の約8人に1人**とも言われています。
最終的には、自分で尿が作れなくなり、週に数回、病院で人工透析を受けなければならなりません。
透析は一度始めると、基本的に**一生続ける**必要があり、非常に重い**医療費負担**と**時間的負担**となります。

当てはまるものはありますか

- ☑ 親族に透析を受けている方、
腎疾患をお持ちの方がいる
- ☑ メタボリックシンドロームと診断された
- ☑ 血圧高値・血糖高値・脂質異常
を指摘された
- ☑ 腎機能(eGFR・クレアチニン)
で経過観察が必要と言われた

腎機能低下に
気をつける必要
があります
腎チェック
で調べてみましょう



透析が必要になる前に…

早期からリスクを知り、予防していくことが重要です

腎チェック

で早期段階から備えていきましょう

腎チェックは、CKD（慢性腎臓病）の早期発見と重症化予防を目的とした検査です。
腎機能低下に係る2つの物質**L-FABP**と**mALB**を組み合わせることで測定することによって、早期診断に有効であることが研究で示されています。

これらの物質は測定されているeGFR・クレアチニンよりも**早期かつ精度よく**腎症進展を予測できると報告されています。

検査費用: **12,100**円(税込)



IMS(イムス)グループ 医療法人財団 明理会

新松戸中央総合病院 健診科

TEL:047-345-1111 (代表)

健診・人間ドック担当まで

腎チェック検査とは？

- ✓ 尿中L-FABPと尿中アルブミンを測定する、**慢性腎臓病（CKD）の早期発見と重症化予防**を目的とした検査です。
- ✓ L-FABPは**腎機能低下の原因**である尿細管虚血に伴う酸化ストレスの亢進をとらえるマーカーです。
- ✓ mALB（尿中アルブミン）は**腎機能低下の結果**を反映するマーカーです。
- ✓ eGFR・クレアチニンよりも**早期かつ精度よく**腎症進展を予測することができると報告されています。

早期診断への有用性と高い精度が報告されています

【方法】

糖尿病性腎症患者147例の尿中L-FABP値を病期により選別して平均および標準偏差を算出し、健常人における尿中L-FABP値も合わせて示した。

【結果考察】

糖尿病性腎症患者の尿中L-FABP値は病期の進行とともに増加し、健常人に比べ腎症早期より有意に高い値を示すことから、糖尿病性腎症の早期診断に有用であることが示唆された。

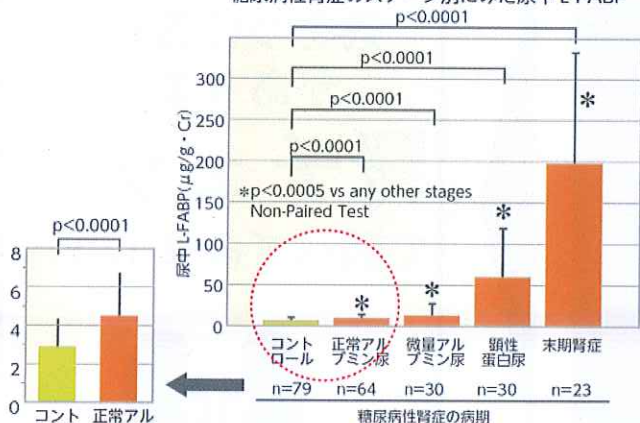
【方法】

糖尿病患者147例のうちeGFR $\geq$ 60の86例について、初年度の尿中L-FABP（正常：8.4 μ g/gCr以下）と尿中アルブミン（Alb）（正常：30mg/gCr未満）により層別した4群についてのeGFRの変化を追跡した。

【結果考察】

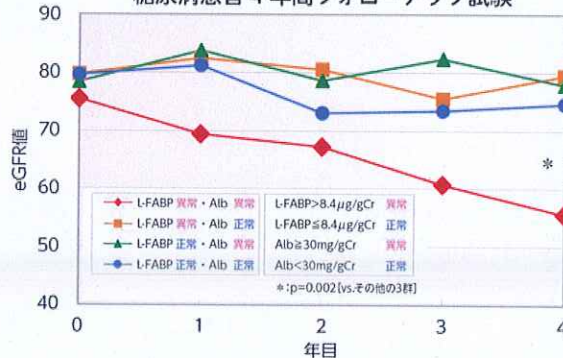
尿中L-FABPと尿中アルブミンともに異常値を示した群は4年後の腎機能が有意に低下した。尿細管機能を反映する尿中L-FABPは、糸球体障害の指標である尿中アルブミンと同時に測定することによって、高精度にリスク群を判別できることが示唆された。

糖尿病性腎症のステージ別にみた尿中L-FABP



(Kamijo-Memori A, et al. Diabetes Care 34: 691-696, 2011 から改変)

糖尿病患者 4 年間フォローアップ試験



(製造販売元データ)

◆検査結果サンプル

腎チェック検査結果報告書

受診医療機関

NSM医療管理センター

氏名

サンプル タロウ

受付日

2019/1/1

検査ID

11111

性別

男性

年齢

50

検査結果

あなたの腎障害の可能性は **高リスク** です。

腎機能

高リスク

中リスク

低リスク

尿中L-FABP

検査値

400

正常範囲

0-8.4

mALB(尿中アルブミン)

検査値

300.0

正常範囲

0-30.0

総合評価コメント

腎チェックは現在の腎臓の健康状態を調べる検査です。この結果は将来の慢性腎臓病(CKD)の発症及び進行を予測しています。

今回の検査結果では高リスクと評価されました。この結果は慢性腎臓病が原因で腎臓が正常に機能していない可能性が考えられます。

一方で、この腎機能の低下は、一時的な生活習慣の変化やストレスによる一過性の可能性も考えられます。その為、医療機関を受診の上、今回の結果が慢性腎臓病によるものか否かを医師と相談をお願いします。

慢性腎臓病(CKD)について

慢性腎臓病(CKD)は腎臓の健康状態の悪化(血圧不全や酸化ストレスの上昇)により、その機能が低下する病気です。腎臓の機能は生命維持のために、腎臓病は全身に影響を及ぼします。また、一度壊れた腎臓はもとには戻りません。健康な生活習慣を維持し、CKD(慢性腎臓病)の予防に努めましょう。

腎臓を守るために

検査値

高リスク

中リスク

低リスク

二次検査の受診をおすすめします。

既に慢性腎臓病が進行している可能性が考えられますので、医師の診察を受け、治療法や生活習慣の改善について相談してください。

糖尿病や高血圧の検査に努めましょう。

慢性腎臓病は糖尿病や高血圧が原因で起こる病気です。そのための定期的な腎チェックを受診するとともに、慢性腎臓病を予防するための生活習慣を改善しましょう。

慢性腎臓病予防のためへの取り組み

生活習慣を適切に改善する

慢性腎臓病の発症には、腎臓病、高血圧、糖尿病などの生活習慣病が深く関係しています。生活習慣を適切に改善し、腎臓病を予防しましょう。

適度な食事や適度な運動を心がけよう

たんぱく質の摂りすぎを避けるため、毎日の食事量(タンパク質)を、そして塩分を1日に1g以下、バランスのよい食事と適度な運動を心がけよう。

過度な食生活は避けよう

過度な食生活は腎臓に負担をかけるため、1日8時間未満の睡眠を心がけよう。

アルコールは適量を！喫煙はやめよう

過度の飲酒、喫煙は血圧を高め、腎臓に負担をかけるため、適量を心がけよう。

薬の飲み方には注意が必要

鎮痛剤、利尿剤、降圧剤などの薬は、腎臓に負担をかけるため、医師の指示に従って服用しよう。

定期的な検査を受けよう

腎臓病、高血圧、糖尿病の人や、腎臓病の家族がいる方は特に必要です。

ビジュアル化した見やすい結果にてリスク表示を行います。結果には全て総合コメントと個別項目についての解説とコメントをつけてお返し致します。

PreMedica